

## 【特別支援教育のセンター的機能】 ～しろがね分校による地域支援～



しろがね分校では、専門アドバイザー（昨年度までの特別支援教育コーディネーターの名称が変更になりました）が中心となり、前橋市・玉村町の幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校を訪問したり、保護者に来校していただいたり、発達の気になる子供達についての継続的な支援を行っています。特別支援学校（養護学校）の専門的な知識や技術を生かし、子供達の成長のお手伝いをしています。

### 昨年度の相談依頼の件数(外部支援)

対象	幼稚園・保育園	小学校	中学校	高等学校	その他	計
件数	106件	62件	16件	0件	27件	211件

(その他は保護者や関係機関を含む)

### 専門アドバイザーの仕事を紹介します。



小学校の1年生のお子さんです。医療機関で、自閉症スペクトラムと診断されています。家庭でのお子さんの行動をよりよいものにするために、毎月、来校しての相談を行っています。

母親の相談内容は、家庭で弟とレゴブロックで遊んだ後、片付けないというものでした。障害の有無にかかわらず、どの家庭でもあるのではないのでしょうか？

様子をよく聞くと、母親が「ご飯だから、片付けて」と言葉をかけると、袋の中にレゴブロックを1つずつ入れ始めます。もちろん、母親と本児と弟の3人で片付け始めますが…。

本児の特徴として、レゴブロックを1つずつ片付けるんですね。でも、レゴブロックってたくさんあるのです。しばらく片付けるのですが、そのうちに、残っているレゴブロックで遊んだり、弟とおいかけてこが始まってしまい、すると、もう、遊びをやめられず、結局は母親一人が片付けている…という状態だそうです。

問題は、1つずつ片付けていることです。そこで、楽しく片付けられるために、ちりとりのような一度に大量にレゴブロックをすくって片付けられるものを作ってもらいました。



すると、制作の得意な母親は、牛乳パックをつかってかわいい蛙のちりとりとバケツを作ってくれました。



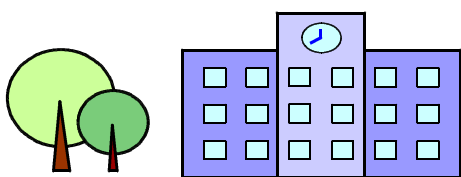
さらに、本児はレゴブロックで遊ぶのが好きなので、片付けたら、次回使えるレゴ券を渡すことにしました。

母親が家に帰って、「片付けたら次回使えるレゴ券を渡すこと」や「蛙のちりとりとバケツを使用してよい」ことを伝えると、システムを理解し、母親と一緒に色鉛筆でカラフルに塗ったレゴ券を本児自ら作ってくれました。

「蛙のちりとり」も気に入ったのでしょう。小学生なので、かわいいグッズは大好きです。さらに、片付けないと次回、レゴブロックで遊べなくなるのは嫌なので、不満を言いながらも片付けをしているそうです。

少しの支援があれば、このように、困った行動を改善することはできます。もちろん、お子さんの実態によって、支援の内容や方法は異なりますが、対応の仕方を変えれば、驚くほど、子供は変わるものですよ。

学校現場でも同じです。子供のために、ちょっとした支援をしてみませんか？



幼稚園・保育園・小学校・中学校の先生方、保護者の皆様、気になる子がいましたら、お気軽にご連絡下さい。障害の有無に関係なく、専門アドバイザーが定期的に訪問いたします。一度、試してみませんか。

また、今年度より、文部科学省のモデル事業による、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士に同行訪問も行っております。姿勢がおかしい・不器用である・言葉が不明瞭・食べ方が気なる等の相談がありましたら、遠慮なくお知らせ下さい。

渡良瀬養護学校しろがね分校

専門アドバイザー

電話 027-268-6111

FAX 027-268-6113